

本社の自家発電強化

安定操業へ電力確保

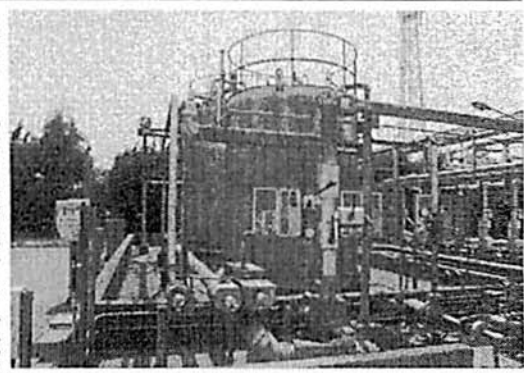
大成ファインケミ

【千葉】大成ファインケミカル(千葉県旭市、稻生豊人社長、0479・64・2077)は本社工場の自家発電設備を増強する。年度内に、夏場のピーク時の電力消費量を超える出力300kw(400kw)規模の発電設備を導入する。外部からの電力供給が絶たれた際にも安定して操業でき、取引先への供給責任を果たせる体制を構築する。これにより企業としての信頼性を高め、競争力強化につなげる。

400kW設備を導入

大成ファインケミカルは溶液型のアクリル樹脂メーカー。樹脂製品の生産は、反応工程での温度制御に大量の電力を使う。このため同社は、電力監視システムの導入で無駄を明確化するとともに、夜間電力の活用や、配管の改善によるポンプの省エネルギー化、発光ダイオード(LED)照明の導入など、早くから節電に力を入れてきた。

それでも現在保有する自家発電設備でまかなえない電力量は電力消費のピーク時の4-5割程度に



ととまる。設備の老朽化も進んでおり、更新の必要性もあった。
新たな自家発電設備の導入に伴う設備投資額は(稲生社長としている)。

▲……………
約5000万円。管理費や燃料費などを考慮すると電力コストは基本的に割高になるが、同社では「事業継続が優先。リスク対応力も上がる。中小企業にも夏場に向けて一層の節電が求められる中、社会貢献にもなる」

日本資材 CNT 高分散塗料開発 高い光透過と導電性

日本資材(大阪府中央区、高野繁正社長、06・6264・0222)は分散が難しいとされるカーボンナノチューブ(CNT)を高分散させた塗料を開発、同塗料を用いて光透過性と導電性に優れたコーティングフィルムを作成した。既に塗料やフィルムのサンプル出荷を始めており、8